

## 渋谷駅周辺地区における再開発事業の進捗について

- 「渋谷スクランブルスクエア第Ⅰ期(東棟)」の開業月、  
展望施設および産業交流施設の連携パートナーなどが決定
- 「渋谷フクラス」内に開業する「東急プラザ渋谷」の開業月、商環境デザイナーが決定

東京急行電鉄株式会社  
東急不動産株式会社

東京急行電鉄および東急不動産は、世界を牽引する新しいビジネスやカルチャーを発信するステージとして、「エンタテインメントシティSHIBUYA」の実現を目指し、2018年9月に開業した渋谷ストリームや渋谷ブリッジ、2019年3月に竣工した渋谷ソラスタなど、渋谷駅周辺における大規模な再開発プロジェクトを関係者と協力して推進しています。

今般、2019年秋開業予定の「渋谷スクランブルスクエア第Ⅰ期(東棟)」の開業月、展望施設および産業交流施設の連携パートナーの決定や、2019年秋竣工予定の「渋谷フクラス」内に開業する「東急プラザ渋谷」の開業月、商環境デザイナーの決定、さらに渋谷駅地下出入口番号変更などについて、別添の通り発表します。

また、今後は2023年度竣工予定の「渋谷駅桜丘口地区」や、2027年度開業予定の「渋谷スクランブルスクエア第Ⅱ期(中央棟・西棟)」などが控えています。

加えて渋谷では、渋谷駅周辺の動線の大規模な改良や、広場の整備・活用など、駅の利便性や街の回遊性の向上を推進するとともに、渋谷駅前エリアマネジメントを中心とした公民連携・まちぐるみの取り組みを実施することで、エリアの魅力を高めるまちづくりを進めます。

各開発計画の詳細については、今後、逐次発表します。

以上



## 【最新情報】渋谷駅直結・直上！地上47階建ての新ランドマーク 渋谷スクランブルスクエア第Ⅰ期(東棟)、11月開業決定

- 展望施設「SHIBUYA SKY(渋谷スカイ)」、演出プランナーを決定
- 渋谷最大級のオフィフロアに成長企業が集結！全27フロアのリーシングが完了
- 産業交流施設「SHIBUYA QWS(渋谷キューズ)」、2019年7月から会員募集スタート
- 商業施設では本日4月10日(水)からイベントスペースの問い合わせ窓口開設

渋谷スクランブルスクエア株式会社、東京急行電鉄株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、東京地下鉄株式会社

渋谷スクランブルスクエア株式会社、東京急行電鉄株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、東京地下鉄株式会社は、渋谷エリアで最も高い約230m・地上47階建ての大規模複合施設「渋谷スクランブルスクエア第Ⅰ期(東棟)」(以下、本施設)の開業時期を2019年11月に決定し、オフィシャルティザーサイト(URL: <https://www.shibuya-scramble-square.com>)を公開しました。また、14階・45階～屋上の展望施設「SHIBUYA SKY(渋谷スカイ)」、17階～45階のオフィス、15階の産業交流施設「SHIBUYA QWS(渋谷キューズ)」、地下2階～14階の商業施設に関する最新情報を発表します。



▲「SHIBUYA SKY」屋上展望空間からの眺望イメージ



▲「SHIBUYA SKY」屋上からの眺望(スクランブル交差点・夜)



▲商業施設7階イベントスペースイメージ(近景)

渋谷最高峰約230mのパノラマビューを誇り、日本最大級の屋上展望空間(約2,500㎡)を有する展望施設「SHIBUYA SKY」は、数多くのプロジェクトで世界的な注目を集めるクリエイティブ集団・株式会社ライゾマティクスの、「ライゾマティクスデザイン」部門を演出プランナーとして採用します。渋谷上空でしか見ることができない眺望体験と空間演出の融合によって想像力を刺激し、既存の展望施設の概念を超える新しい体験を提供します。本プロジェクトは、株式会社ライゾマティクスが施設の演出を担当したプロジェクトの中で、過去最大規模となります。

総賃貸面積約73,000㎡、基準階面積最大約2,900㎡(約870坪)で、渋谷最大級の広さを誇るオフィスでは、全27フロアのリーシングが完了しました。渋谷を拠点に発展したIT関連企業を中心に、日本の成長を牽引する企業が集結します。全てのフロアから都心の眺望を堪能でき、先進オフィスにふさわしい環境を備えます。

産業交流施設「SHIBUYA QWS」は、多様な人たちが交差・交流し、社会価値につながる種をうみだす会員制の施設として、2019年7月から会員募集を開始します。会員向けオリジナルプログラム「QWS Program」(以下、本プログラム)を「出会う」「磨く」「放つ」の3つのフェーズに分け、大学をはじめとする多様なプレイヤーと連携して提供することで、新たな価値の創造とクリエイティブ人材の育成を目指します。また、2019年6月から、本プログラムのエッセンスを体験できるオープントライアルを実施します。

商業施設では、4月10日(水)から3階、7階、12階、計3カ所のイベントスペースの問い合わせ窓口を開設します。3階は、渋谷駅や歩行者デッキなどをつなぐ縦軸空間「アーバン・コア」をのぞむ発信力の高いスペースです。7階は、吹き抜けのあるオープンスペースで、カフェが併設されており、体験型のイベントやオリジナルメニューの提供も可能です。12階はレストランフロアに位置し、約250㎡の広さに加え本格的な厨房・音響設備を備えており、「食」をテーマにしたイベントなどに最適なスペースです。ビジョンである「世界最旬宣言」を発信する情報拠点として、渋谷に集まる遊び心いっぱいの人々へ常に時代の最旬を提供します。

本施設の開業に伴い、エレベーターやエスカレーターにより、地下やデッキから地上に人々を誘導する、街に開かれた歩行者動線「アーバン・コア」を整備します。すり鉢地形である渋谷の地下から地上への縦移動を便利にし、街の回遊性をさらに高めるとともに、街と建物をつなぐ場所に「賑わい」を生み出します。

100年に一度と言われる再開発のなか、新たに生まれる渋谷駅直結・直上のランドマークから新しい価値を発信し、新たな出会いが生まれる「SQUARE(街区/広場)」となることを目指します。

詳細は、別紙の通りです。

## 【別紙】



### 展望施設「SHIBUYA SKY(渋谷スカイ)」(14階・45階・46階・屋上)

渋谷最高峰約230mのパノラマビューを誇り、日本最大級の屋上展望空間（約2,500㎡）を有する展望施設「SHIBUYA SKY」は、数多くのプロジェクトで世界的な注目を集めるクリエイティブ集団・株式会社ライゾマティクスの、“ライゾマティクスデザイン”部門を演出プランナーとして採用します。展望施設を空間装置ととらえ、その入口から出口までを一貫した体験ストーリーで演出。渋谷上空でしか見ることができない眺望体験と空間演出の融合によって、想像力を刺激し、既存の展望施設の概念を超える新しい体験を作り出します。

#### ■施設概要

名称: SHIBUYA SKY(渋谷スカイ)  
フロア: 14階(チケットカウンター)・45階・46階(屋内展望施設)・屋上  
高さ: 地上約230m  
営業面積: 屋上展望空間 約2,500㎡、屋内展望施設 約3,000㎡  
入場料: 2,000円(税込)

#### ■展望施設「SHIBUYA SKY」眺望イメージ



▲屋上展望空間と中目黒方面の眺望イメージ



▲屋上展望空間の眺望イメージ



▲屋上展望空間と六本木方面の眺望イメージ

#### ■屋上からの眺望写真



▲屋上からの眺望(スクランブル交差点・夜)



▲屋上からの眺望(富士山方面・昼)



▲屋上からの眺望(六本木方面・夜)

#### 【株式会社ライゾマティクス】 <https://rhizomatiks.com>

2006年に設立。Webから空間におけるインタラクティブ・デザインまで、幅広いメディアをカバーする高い技術力と表現力を併せ持つ組織。アーティストのほか、ハードウェア/ソフトウェアのエンジニアなど、さまざまなバックグラウンドを持つ個性豊かなクリエイター、プロデューサーが在籍し、メディアアートで培った知見と高い技術力・企画力をエンタテインメントや広告といった多分野において展開。プランニングから制作までフルスタックで手がけ、海外においてもその名を知られる数少ないプロダクションです。国内外の広告賞やクリエイティブアワードなど多数受賞の実績をもちます。

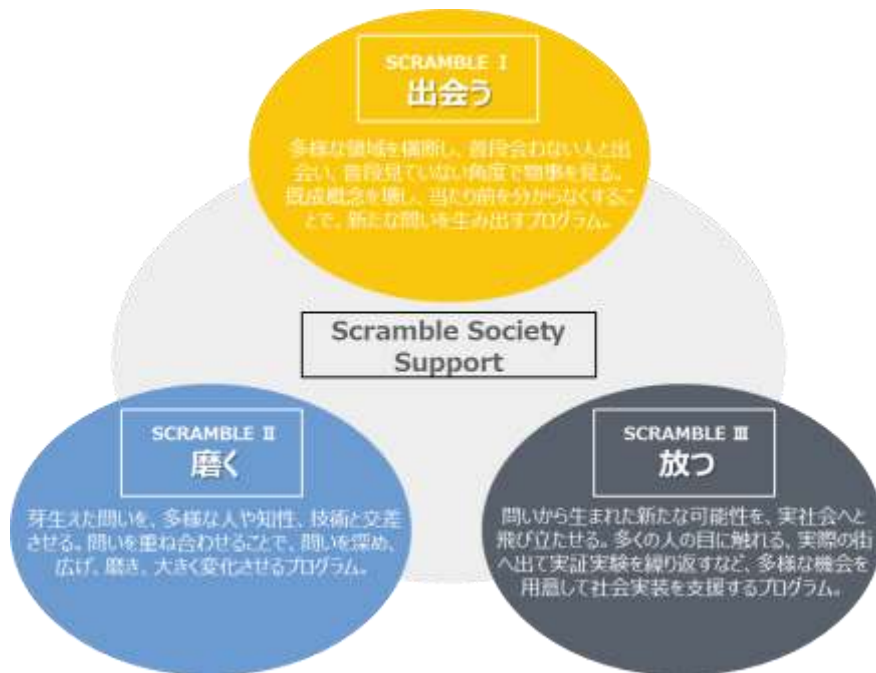
多様な人たちが交差・交流し、社会価値につながる種をうみだす「SHIBUYA QWS」。“渋谷から世界へ問いかける可能性の交差点”をコンセプトとして2019年11月から営業を開始します。営業開始に先駆けて、会員制の施設として、2019年7月から会員の募集(法人会員・個人会員ほか)を開始するとともに、2019年6月から「QWS Program」をいち早く体験できるオープントライアルを実施します。

■施設概要

名称: SHIBUYA QWS(渋谷キューズ)  
 フロア: 15階  
 営業面積: 約2,600㎡

■価値創造を加速させるプログラム「QWS Program」を提供

会員向けオリジナルプログラム「QWS Program」を「出会う」「磨く」「放つ」の3つのフェーズに分け、多様なプレイヤーと連携して提供します。よりよい未来の創造へ向けて「問い」の発見から解決の種を共創することについて、この独自のプログラムにより、学びから実践まで一気通貫でサポートし、新たな価値の創造とクリエイティブ人材の育成を目指します。



▲「QWS Program」プログラムイメージ

■「QWS Program」をいち早く体験！オープントライアルを実施

営業開始に先駆け、「QWS Program」のエッセンスを体験できるオープントライアルを、2019年6月から実施します。オープントライアルは、株式会社ミクリデザインと共同で開発する、「問い」を起点にした「QWS Cultivation Program」。ワークショップやイベント、アカデミックリサーチの支援などを通して、「問う」力や感性を耕すことを主な目的とし、「問い」の可能性を社会へと広げていくQWS独自のプログラムです。

※オープントライアル・イベントの詳細や、応募方法については、以下ウェブサイトおよび公式Facebookページで随時お知らせします。

<https://shibuya-qws.com>

■SHIBUYA QWSの主な連携パートナー(順不同)

SHIBUYA QWSは、東京大学、東京工業大学、慶應義塾大学、早稲田大学、東京都市大学をはじめ、株式会社ロフトワーク、EDGEof、NPO法人 ETIC、株式会社ミクリデザイン、ドリフターズインターナショナル、株式会社東急エージェンシーなど、領域を横断しさまざまなプレイヤーと連携していきます。(2019年4月現在)



## 商業施設「渋谷スクランブルスクエア ショップ&レストラン」(地下2階～14階)

商業施設では、イベントスペースの問い合わせ窓口を開設します。イベントスペースは、3階、7階、12階の計3カ所で展開し、渋谷駅直結・直上というアクセスの良い立地にイベント機材や厨房を備え、展示会や体験型イベントなど多様なニーズに応えます。渋谷スクランブルスクエアの情報拠点として、その時々「旬」な、モノ・コト・トキを発信し続けます。

### ■施設概要

フロア: 地下2階～14階

営業面積: 約32,000㎡

取扱カテゴリー: フード、ファッション、ライフスタイル雑貨、カフェ・レストランなど

### <3階>面積: 約60㎡

渋谷駅や歩行者デッキなどをつなぐ縦軸空間「アーバン・コア」をのぞむ、視認性に優れ高い発信力をもつスペースです。簡易厨房を備え、カフェやケータリングパーティーなどの開催に対応できます。立地を生かしたイベントや、プレス発表・招待客向け展示会などのクローズドイベントにも最適です。



▲3階イベントスペース外観 現在の様子(工事中)

### <7階>面積: 約95㎡

低層階と高層階を結ぶエスカレーターの乗り換えフロアに位置し、吹き抜けが象徴的なオープンスペースです。併設されたカフェと連動し、体験型のイベントやオリジナルメニューの提供が可能です。吊バトンによるバナー演出機能も備え、開放的な空間を生かした展示イベントや、商品発表・販売にもご利用いただけます。



▲7階イベントスペースイメージ(近景)



▲7階イベントスペースイメージ(遠景)

### <12階>面積: 約250㎡ / 収容可能人数: 最大約150～200名

12階のレストランフロアに位置する、開放的な吹き抜け空間です。本格的な厨房や、照明・音響設備を完備しており、「食」をテーマにしたイベントに最高のパフォーマンスを発揮します。北側の全面窓からは、渋谷を象徴するスクランブル交差点をのぞむことができ、情報発信をするロケーションとしての華やかさも併せ持っています。



▲12階イベントスペースイメージ

### ■イベントスペース ティザーサイト

[https://www.shibuya-scramble-square.com/shops\\_restaurants/eventspace/](https://www.shibuya-scramble-square.com/shops_restaurants/eventspace/)

### ■イベントスペースに関する問い合わせ窓口

渋谷スクランブルスクエア スペースストア

E-mail: [scsq\\_space-store@tokyu-agc.co.jp](mailto:scsq_space-store@tokyu-agc.co.jp)

<施設概要>

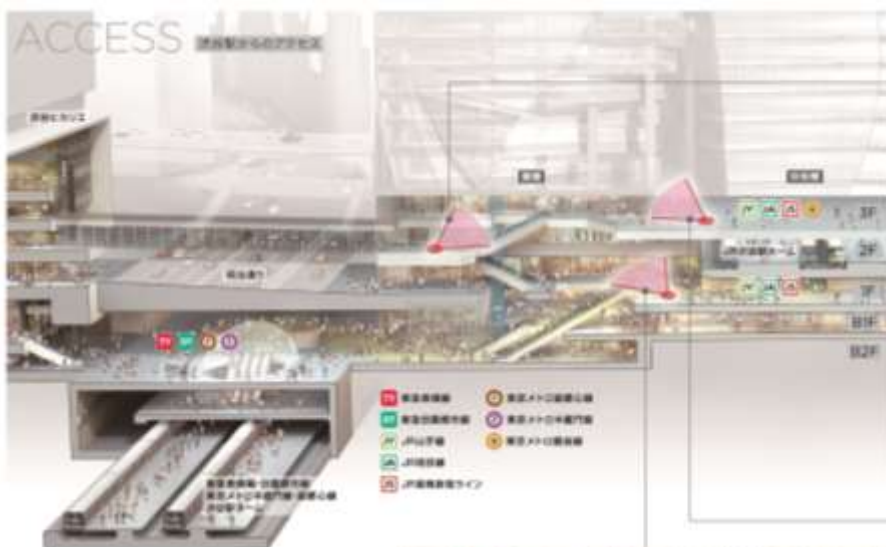
名称： 渋谷スクランブルスクエア／SHIBUYA SCRAMBLE SQUARE  
 事業主体： 東京急行電鉄(株)、東日本旅客鉄道(株)、東京地下鉄(株)  
 所在： 東京都渋谷区渋谷2丁目24番12号  
 用途： 事務所、店舗、展望施設、駐車場など  
 延床面積： 第Ⅰ期(東棟)約181,000㎡、第Ⅱ期(中央棟・西棟)約96,000㎡  
 階数： 第Ⅰ期(東棟)地上47階 地下7階、第Ⅱ期(中央棟)地上10階 地下2階、(西棟)地上13階 地下5階  
 高さ： 第Ⅰ期(東棟)約230m、第Ⅱ期(中央棟)約61m、(西棟)約76m  
 設計者： 渋谷駅周辺整備計画共同企業体  
           (株)日建設計、(株)東急設計コンサルタント、(株)JR東日本建築設計、メトロ開発(株)  
 デザイナー： (株)日建設計、(株)隈研吾建築都市設計事務所、(有)SANAA事務所  
 運営会社： 渋谷スクランブルスクエア(株)  
           \* 東京急行電鉄(株)、東日本旅客鉄道(株)、東京地下鉄(株)の3社共同出資  
 開業： 第Ⅰ期(東棟)2019年11月、第Ⅱ期(中央棟・西棟)2027年度  
 URL： <https://www.shibuya-scramble-square.com>



▲渋谷スクランブルスクエア(宮益坂交差点方面より望む)



▲フロア構成図



▲1階アーバン・コアイメージ(北側より)



▲2階アーバン・コアイメージ  
(渋谷ヒカリエ連絡通路出入り口より)



▲3階アーバン・コアイメージ(西側より)

2019年4月10日

報道関係者各位

東急不動産株式会社

## 生まれ変わる「東急プラザ渋谷」2019年12月に開業決定！

### 商環境デザイナーにグラマラスの森田恭通氏を起用

～フロアごとに異なる自然のエLEMENTを取り入れ「MELLOW LIFE」を体現する空間に～

東急不動産株式会社（本社：東京都港区、社長：大隈 郁仁）は、「渋谷フクラス※」の商業施設ゾーンに開業する「東急プラザ渋谷」において、開業月と商環境デザイナーが決定しましたので、お知らせいたします。開業は2019年12月を予定しています。

※「渋谷フクラス」は、当社が組合員および参加組合員として参画する道玄坂一丁目駅前地区市街地再開発組合で推進中の第一種市街地再開発事業（以降、本プロジェクト）のビル名称です。

#### ■ 商環境デザイナーにグラマラス 森田氏を起用

当社は、100年に1度と言われる再開発が進む渋谷において、「都会派の感性が成熟した大人たち」をターゲットに、新時代に向けた新しい商業施設として東急プラザ渋谷を開業します。東急プラザ渋谷で提案するのは、「MELLOW LIFE（メロウ ライフ）」という“本物・本質的・普遍的なものの良さ”を大切に、時間を積み重ね成熟していくことを楽しむライフスタイルです。

「MELLOW LIFE」を体現するパートナーとして、成熟した大人たちが集まる新時代の商業施設にふさわしい商環境デザインを手がけるのは、国内外で活躍する GLAMOROUS co., ltd.（グラマラス）です。インテリアに限らず幅広い創作活動の分野でトップランナーとして活躍し続ける代表の森田恭通氏ご自身がまさに感性の成熟した大人であり、東急プラザ渋谷のコンセプトに深く共感いただけたことで、今回の協業が実現しました。



森田 恭通（デザイナー/GLAMOROUS co.,ltd.代表） コメント

私が「東急プラザ渋谷」をデザインする上で大事にしていることは、変化し続ける人々の価値観、ライフスタイル、消費行動を、時を越えても、タイムレスなデザインによって、継承され五感で感じられる空間にすることです。それは、人々に新しい発見や驚きを共有してもらえることでもあり、どの世代も、時を重ねるごとに輝きを増すことによって、渋谷の街が、更に魅力的になると考えるからです。新たに生まれ変わる「東急プラザ渋谷」は、継承され、時を経てなお、愛され続けられることでしょう。

#### ■ 自然のエLEMENTをテーマに、「MELLOW LIFE」を体現する空間

森田氏が「MELLOW LIFE」を体現する空間デザインとしてこだわったのは、“本物”や“本質”です。自然から得たELEMENTをテーマに、フロアごとに石、金、木、光など異なるELEMENTを用いてデザインすることで、それぞれに特色を持たせ、成熟した大人の感性を刺激する空間を作り出します。また、一部で旧東急プラザ渋谷で使われていた素材を使用する予定です。



〈東急プラザ渋谷 2階エントランス〉

施設の顔となるエントランスはアーチの形状で視認性と入り口としてのわかりやすさを実現



〈東急プラザ渋谷 2階吹抜け〉

“石・ゲート”をテーマとする2階の一部には旧東急プラザ渋谷の外壁に使用していた石を再利用



## ■ 商環境デザイン：GLAMOROUS co.,ltd.について



社名 株式会社グラマラス  
 所在地 東京都港区南青山2-24-15 青山タワービル10階  
 代表者 代表取締役社長 森田 恭通  
 設立 2000年6月  
 事業内容 インテリアデザイン、建築デザインのディレクション、プロダクトデザイン、グラフィックデザイン  
 URL <http://glamorous.co.jp/company/>

### 森田 恭通（もりた やすみち） プロフィール

デザイナー/GLAMOROUS co.,ltd. 代表。1967年大阪生まれ。2001年の香港プロジェクトを皮切りに、ニューヨーク、ロンドン、カタール、パリなど海外へも活躍の場を広げ、インテリアに限らず、グラフィックやプロダクトといった幅広い創作活動を行なっている。2013年自身初の物件集「GLAMOROUS PHILOSOPHY NO. 1」がパルコ出版より発売。2016年には全館に「クールジャパン」をコンセプトとする三越伊勢丹 HD の新型店 ISETAN The Japan Store Kuala Lumpur が完成した。また、アーティストとしても積極的に活動しており、2015年より写真展「Porcelain Nude」をパリで継続して開催している。SEGD Global Design Award、A' Design Award and Competition、Design For Asia Awards、The International Hotel and Property Awards、INTERNATIONAL PROPERTY AWARDS、THE LONDON LIFESTYLE AWARDS、The Andrew Martin Interior Designers of the Year Awards など、受賞歴多数。

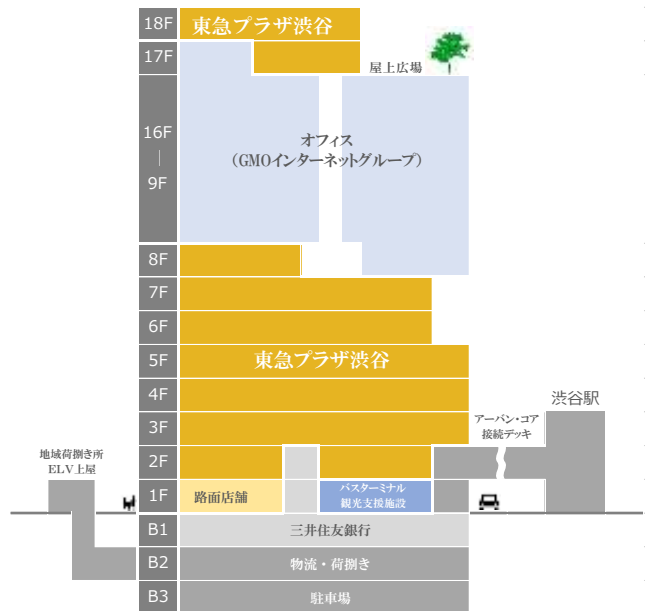
## ■ 東急プラザ渋谷 施設概要

旧東急プラザ渋谷跡地と隣接する街区を一体開発する本プロジェクトの複合ビル「渋谷フクラス」の2～8階、17・18階の商業施設部分として入る東急プラザ渋谷。「大人が集まる、渋谷の広場。」として、都会派の感性が成熟した大人たちをターゲットに、「MELLOW LIFE」という新しいライフスタイルを提案します。「MELLOW LIFE」とは、“本物・本質的・普遍的なものの良さ”を大切に、時間を積み重ね成熟していくことを楽しむライフスタイルです。

新しいライフスタイルを発信する商業施設として、従来のモノやコトをお客様に一方向的に提供するのではなく、ソリューションや体験を提供することで、お客様の「パートナー」として人生に寄り添うことができる新しい商業施設を目指します。

「美」、「健康」、「食」をはじめ、「ライフプラン」のサポートまで、成熟した大人たちのニーズに応える店舗構成を予定しています。

事業主体 東急不動産株式会社  
 所在地 東京都渋谷区道玄坂一丁目38番(地番)  
 地上2階～8階、17階、18階  
 (渋谷フクラス内)  
 設計・監理 清水建設株式会社一級建築士事務所  
 商環境デザイン 株式会社グラマラス  
 施工 清水建設株式会社  
 開業 2019年12月



「渋谷フクラス」フロア構成イメージ



<参考資料>

## ■ 「渋谷フクラス」について

本プロジェクトは、旧東急プラザ渋谷および隣接する街区を一体開発するもので、東急グループが関係者と共に推進中の渋谷駅周辺再開発のプロジェクトのひとつです。

約5,000坪を誇る9～16階のオフィスフロアには、GMOインターネットグループの入居が決まっています。また17階には、新しいビジネスを生み出す拠点となる産業進出支援施設を備えます。クリエイティブコンテンツ産業や外国企業の進出拠点となる施設を整備することで、企業やクリエイターのスタートアップとなる場を創出します。

2～8階、17・18階には、新時代のニーズに応える商業施設に進化して生まれ変わる「東急プラザ渋谷」が入るほか、低層部は、路面店舗が街の賑わいを創出します。また、地下1～2階には三井住友銀行が入居予定です。

さらに本プロジェクトでは、ビル内および周辺にて地域貢献施設の整備も進めています。エレベーターやエスカレーターにより多層な都市基盤をバリアフリーで上下に結ぶアーバン・コア、渋谷駅と本ビルおよび周辺エリアをつなぐ道玄坂接続デッキを整備。「渋谷フクラス」をハブとして、渋谷駅や周辺エリアへ上下左右に移動しやすい歩行者ネットワークを実現します。

1階には、一般路線バスや空港リムジンバスも乗り入れる予定のバスターミナルを設置。手荷物預かり、観光案内などの機能を備えた観光支援施設を併設し、渋谷駅周辺の国際競争力を一段と高めます。

こうした取り組みを通じて、本プロジェクトでは、渋谷を訪れる多世代やインバウンドの人々にとって渋谷駅西口の新たな玄関口となるとともに、多様性という渋谷の魅力をより一層高めることができるよう、地域とともに賑わいある街並みづくりを進めてまいります。

なお、渋谷フクラスは、2019年10月に竣工予定です。



「渋谷フクラス」外観(北東側)イメージ

## ■ 事業概要

事業主体	道玄坂一丁目駅前地区市街地再開発組合
所在地	東京都渋谷区道玄坂一丁目38番(地番)
用途	店舗、事務所、駐車場等
敷地面積	約3,336㎡
延床面積	約58,970㎡
階数	地下4階～地上18階(建築基準法上は19階)
高さ	約103m
設計者	デザイナー・アキテクト：手塚建築研究所 マスター・アキテクト：株式会社日建設計 設計・監理：清水建設株式会社一級建築士事務所
施工者	清水建設株式会社
竣工	2019年10月(予定)

計画地



## 渋谷駅における案内誘導サインを改善します！

～渋谷駅地下出入口番号の変更を実施し、駅の利便性と、まちの回遊性を高めます～

東京急行電鉄株式会社 東京地下鉄株式会社  
渋谷駅前サインガイドライン策定委員会事務局(渋谷区・渋谷駅前エリアマネジメント協議会)

東京急行電鉄株式会社(本社:東京都渋谷区)と東京地下鉄株式会社(本社:東京都台東区)は、2019年11月に、渋谷駅の利便性向上と、まちの回遊性の向上を目的に、東横線・田園都市線・半蔵門線・副都心線渋谷駅(以下、渋谷駅)地下出入口番号を変更するとともに、案内誘導サインを改善します。本取り組みは、渋谷駅前サインガイドライン(※1)に基づき、渋谷駅中心地区の再開発などの進捗に合わせて実施するもので、1977年の渋谷駅地下駅の開業以来初めての取り組みです。

従来の地下出入口番号は、道玄坂方面から渋谷警察署方面に向かって順次番号付けを実施していましたが、出入口の移設や増設などに伴い、新たな案内誘導の考え方が必要となっていました。

今回の新しい渋谷駅地下出入口番号は、渋谷駅の駅周辺整備が完了する2027年度のまちの将来像を見据えて、A～Dの4つのエリアに分け、各出入口の数字を組み合わせで表記します。エリア分けは、まちの特徴に合わせ、道玄坂方面をAエリア、宮益坂方面をBエリア、渋谷警察署方面をCエリア、桜丘方面をDエリアとします。エリア制を導入することで、おおまかな行き先から出入口を想起しやすくします。また、各エリアにおける数字の番号付けは、今後の駅中心地区の再開発などによる地下出入口の新設に対応するため、外周部から中心部に向けて実施します。なお、新しい渋谷駅地下出入口番号の割り当ては、2019年夏頃に発表する予定です。

また、今回の渋谷駅出入口番号の変更に合わせて、駅周辺の各誘導サインや案内マップについても、関係事業者(※2)の協力により、適宜更新を実施することで、連続した分かりやすい歩行者ルートの案内を実現します。

今回の地下出入口番号の変更により、来街者にとって分かりやすい案内を目指します。今後も、両社は、関係事業者と連携し、渋谷駅をさらに利用しやすくするため、さまざまな取り組みを検討していきます。

### ※1:渋谷駅前サインガイドライン

世界に開かれた生活文化の発信拠点・渋谷にふさわしく、初めて訪れる人にも分かりやすい案内誘導を目指し、関係行政団体と渋谷駅中心地区の基盤整備や再開発などを担う事業者が官民連携した取り組みの実現を目指すことを目的に、渋谷駅前サインガイドライン策定委員会(別紙2参照)で策定されたガイドライン。

### ※2:関係事業者

東日本旅客鉄道株式会社、京王電鉄株式会社、渋谷駅街区共同ビル事業者(東京急行電鉄株式会社・東日本旅客鉄道株式会社・東京地下鉄株式会社)、渋谷ストリーム管理組合、道玄坂一丁目駅前地区市街地再開発組合、渋谷駅桜丘口地区市街地再開発組合、渋谷ヒカリエ管理組合、渋谷駅街区土地区画整理事業施行者、株式会社渋谷マークシティ

以上

【別紙1】

■ 渋谷駅地下出入口番号の変更概要

- ・ 地上のまちの構造とリンクしたA～Dの4つのエリア分けを実施
- ・ エリアごとにアルファベットを付記し、各地下出入口はアルファベットと数字を組み合わせで表記
- ・ 駅中心部における新設出入口に対応できるよう、駅周辺部から中心部に向けて番号付けを実施
- ・ 2019年11月時点の新しい渋谷駅地下出入口番号の割り当ては、2019年夏頃公表予定

図1: 渋谷駅地下出入口番号変更イメージ(2027年度時点を想定)

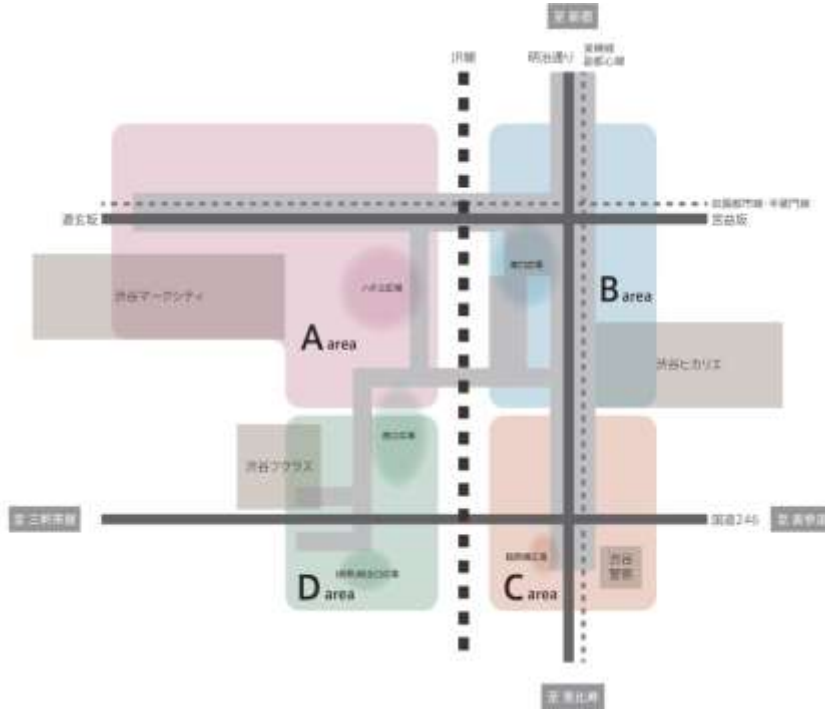


図2: 新地下出入口番号イメージ

**A1** 左側のアルファベットが各エリアを表し、  
右側の数字が各エリア内の地下出入口を示す。

(参考図: 現状の渋谷駅地下出入口番号)



## 【別紙2】

### ■渋谷駅前サインガイドライン策定委員会概要

#### (1)目的

世界に開かれた生活文化の発信拠点・渋谷にふさわしく、渋谷の特性を生かしながら、初めて訪れる人にも分かりやすい案内誘導の実現に向けて、渋谷駅前を対象に多様な関係者が連携し、来街者等の利便性の向上に取り組むことを目的に、2017年2月から検討を進めています。

#### (2)メンバー

座長：岸井隆幸氏（日本大学特任教授）

副座長：中井祐氏（東京大学大学院教授）

専門アドバイザー：竹内誠氏（公益社団法人日本サインデザイン協会副会長）

委員：

(行政) 東京国道事務所、東京都、渋谷区

(民間) 東日本旅客鉄道株式会社、京王電鉄株式会社、東京急行電鉄株式会社、東京地下鉄株式会社

渋谷駅街区共同ビル事業者（東京急行電鉄株式会社・東日本旅客鉄道株式会社・東京地下鉄株式会社）、渋谷ストリーム管理組合、道玄坂一丁目駅前地区市街地再開発組合、渋谷駅桜丘口地区市街地再開発組合、渋谷ヒカリエ管理組合、渋谷駅街区土地区画整理事業施行者、株式会社渋谷マークシティ

オブザーバー：国土交通省都市局まちづくり推進課

事務局：渋谷区都市整備部渋谷駅周辺整備課、渋谷駅前エリアマネジメント協議会

#### (3)ガイドライン適用範囲

下図の中で、都市施設・地区施設等大部分の時間で不特定多数の歩行者が利用するエリア。（鉄道改札内のサインは除く。）

